

平成29年度契約監視委員会（第1回）議事要旨

1. 日時 平成29年6月15日（木）10:00～12:00
2. 場所 大学改革支援・学位授与機構 小平本館206会議室
3. 出席者
（委員）和田委員長、小笠原委員、柴委員
（事務局）管理部長、会計課長、会計課課長補佐、会計課契約係長、
総務企画課情報企画支援室補佐、総務企画課情報企画支援室情報戦略係長
監査室：室長、監査係長、監査係員
4. 議事
議事に先立ち、平成28年度第2回の議事要旨（案）【資料2】が確認され、了承された。
 - （1）平成28年度調達等合理化計画の実施状況に係る自己評価（案）の点検及び
平成29年度調達等合理化計画の策定（案）の点検について
昨年度に策定・公表された「平成28年度調達等合理化計画の実施状況に係る自己評価
（案）」及び「平成29年度調達等合理化計画の策定（案）」の点検について審議を行い、
委員長一任で原案を一部修正することで了承された。
 - （2）平成28年度第2回契約監視委員会での意見について
前回の平成28年度第2回契約監視委員会における委員からの意見について機構より
回答があった。

※質疑の概要については、【別紙】参照。
 - （3）平成29年度3月分までの契約について
平成28年度契約一覧表及び契約資料に基づき、前回点検後の平成28年10月から
平成29年3月の間で契約を締結したものを対象として、①新たに随意契約を締結した
もの、②一者応札・応募となったものについて点検を行った。

※質疑の概要については、【別紙】参照。
 - （4）その他
次回の契約監視委員会は、今回点検した以降の契約について、委員会において点検を行
う契約を抽出し、契約の適正性、妥当性の検証を行うこととし、平成29年11月～平成
30年3月頃に実施することが確認された。

以 上

質疑概要

(2) 平成28年度第2回契約監視委員会における主な意見【資料5】	
確認事項・意見	回答
<p>前回の契約監視委員会における委員からの「一者応札となった契約について原因を分析し、なぜ一者応札となったのか検討する必要がある」等のコメントに対して機構から回答願いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の情報システムの改修にかかる契約については、一般的に、他社が構築したシステムを扱うことはリスクが大きいいため、新規業者は参入しにくいという特性がある。 ・「コピー用紙」については、以前は複数の応札があったので引き続き参入可能な業者に声掛けを行っていきたいが、契約金額は相当程度低い水準になっていると考えている。また、機構全体の方針としてペーパーレス化を進めており、コピー用紙自体の需要も減少していることも考慮する必要がある。 ・「トイレ用防臭機器賃貸借」については、類似のサービスを請け負う業者が少ないためか、仕様書を取りにきた業者も1者であった。 ・「人材派遣（冊子作成及び会議運営等に係るデータ整理業務）」については、国立大学の財務等の調査・分析、データ収集業務に係る人材派遣であるが、業者において要件に該当する者を確保することが困難であったために1者応札となった。競争に参加する者に必要な資格が上位に格付けされている者が含まれていなかったことも原因であると考えている。
(3) 平成29年度3月分までの契約について【資料6、資料7-1～7-6】	
①前回の調達において一者応札・応募となった契約の点検 [2件]	
No.1 (資料7-1) 国立大学法人等の教育研究の状況についての評価に係るヒアリング会場借上	
No.5 (資料7-2) 大学情報評価指標探索ツールに係るシステム開発 一式	
確認事項・意見	回答

<p>・「国立大学法人等の教育研究の状況についての評価に係るヒアリング会場借上」については、条件が厳しすぎるのではないか。</p>	<p>・1週間で90法人のヒアリングを実施したが、委員や事務担当者は同日に3法人を担当する場合があります、短時間で会場間を移動せねばならず、また機密性の高い重要な書類を運搬しなくてはならないため、竹橋オフィスに近いことを要件としている。</p>
<p>（このセルは対角線が入っています）</p>	<p>・「大学情報評価指標探索ツールに係るシステム開発」については、前年度に一般競争入札で導入したシステムであり、システムの構成等を他社には開示していないため当該業者のみが対応可能となっている。</p>
<p>②一者応札・応募となった契約の点検 [4件]</p> <p>No.7 (資料7-3) 小平本館～竹橋オフィス間通信回線 一式</p> <p>No.8 (資料7-4) 会議録作成業務</p> <p>No.9 (資料7-5) フロアスイッチ等 一式</p> <p>No.22 (資料7-6) 業務基幹サーバ構築保守業務 一式</p>	
<p>確認事項・意見</p>	<p>回答</p>
<p>・「小平本館～竹橋オフィス間通信回線 一式」について仕様書を配布した業者は6者であるが、1者応札となった理由はどのようなことが考えられるか。</p>	<p>・辞退した業者からはISOの認証を取得していないことや、月1回程度の運用状況の報告に対応できないことが理由として挙げられている。</p>
<p>・「会議録作成業務」について仕様書には予定数量が示されているので規模感はある程度わかると思うが、1者応札となった理由はどのようなことが考えられるか。</p>	<p>・前述の「国立大学法人等の教育研究の状況についての評価に係るヒアリング」の実施により例年より会議件数が増加したため、一般競争入札を実施した。仕様書を配布した業者は4者であったが、人員の確保ができず、納期に対応できない等の理由により1者応札となった。</p>
<p>・「フロアスイッチ等 一式」については仕様書を配布した業者は15者であるが、1者応札となった理由はどのようなことが考えられるか。</p>	<p>・納期が厳しかったのではないかと考えられる。輸入製品なので納品まで1ヶ月くらいはかかると聞いている。また、事前に動作確認をしてから受注者に納品するため、そ</p>

	<p>のための要員や設備等を手配することができなかつたのではないかと考えられる。</p>
<p>・「業務基幹サーバ構築保守業務 一式」について、情報システムは導入時の費用とその後の保守費用、さらに改修費用がかかる場合があるが、保守費用は、保守の実態が重要である。過年度の業務実態を勘案した上で妥当な内容となっているか。</p>	<p>・ハードウェアの保守についてはメーカーの保証内容という事になるが、運用サポートについては実態を踏まえて、緊急性がないものは要件を緩和する等、毎年度検討している。</p>
<p>・入札を辞退した業者にはアンケートにおいて辞退理由を書かせているとのことだが、原因を分析し、改善すべき事項を取りまとめた資料を作成し、担当者が代わった場合も引き継いでいくべきである。</p>	<p>・そのように検討したい。</p>